

第 62 回宝塚市病院事業運営審議会議事録

日時:令和 7 年 8 月 22 日(金) 15 時 00 分～17 時 00 分

開催場所:宝塚市立病院 講堂 I

出席委員(敬称略) 12 名

医療機関等の代表者 明渡 寛、合田 潔、畑 世剛

公共的団体の代表者 山本 敏晴、阪田 あつ子、宮地 美樹

知識経験者 阪上 雅史、相田 俊夫

関係行政機関の職員 野原 秀晃

一般公募 森山 隆輝、板東 克子、洲上 ゆかり

欠席委員(敬称略) 2 名

医療機関等の代表者 田川 宣文

知識経験者 明石 純

1. 開会

2. 市長挨拶

3. 議事

(1) 前回(第 61 回)議事録の確認(意見なし)

(2) 令和6年度病院事業会計決算概要について(事務局より資料 3 の説明)

会長 10 ページ、入院と外来の推移について、令和2年度から令和6年度まで記してあるが、令和2年度以降の 3 年間は新型コロナウイルス感染症の関係で平時と異なるため、コロナ前の令和元年度からの推移を表す方が良いと思う。兵庫医科大学ではコロナ禍を外してコロナ前と比較しており、割とわかりやすい。

委員 純損益が改善しているため、がんばっていることはよくわかる。一般会計の補助金は令和2年 26 億円、令和3年 27 億円、令和4年 20 億円、令和5年 24 億円だが、令和6年度の額はどの程度か。純損益がこれだけ改善していれば、少なくとも 20 億円を下回っていると思う。

事務局 令和6年度は 14 億 8 千万円の一般会計繰入金をいただいた。手術支援ロボット導入のご寄附分は含めていない。

委員 入院患者数が戻り、在院日数の短縮によって、入院収益が増加したことが、令和6年度の経営を支えたと思う。外来単価の増加は薬品費の増加によるのではないかと思う。外来に関してはもう少し踏み込んだ分析をしてもらえると良いと思う。

- 事務局 入院外来患者比率で見ると、当院は外来が多いため、逆紹介を推進し意図して外来患者数を減らしてきた。薬品費に関して、令和6年度は薬価より購入額が高い、いわゆる逆ザヤの薬品もあり、外来単価は増加しているが利益は変わっていない。
- 委員 これからは、地域の医療機関にどのように貢献しているか、主に何を行っているかがわかるように市民にパフォーマンスしてはどうか。逆紹介の推進はとても良いことだと思う。
- (3) 経営強化プランに係るモニタリング評価について(事務局より資料 4～6 説明)
- 会長 17 ページ、かかりつけ医への挨拶回りによる顔の見える関係構築について、令和5年度 14 件、令和6年度 164 件で 10 倍以上増えている。見方を変えれば令和5年度はほとんど行っていなかったとも言える。200 件、300 件を目指してほしい。
- 事務局 令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変わった年度のため、頻回の訪問ができていなかった。令和7年度は薬剤師を配置しており、令和6年度以上の訪問を予定している。
- 委員 かかりつけ医へのあいさつ回りを薬剤師が行っていることは、とても良い取り組みだと思う。処方箋を受ける薬局にも顔を出してもらえると、より連携が深まると思うので是非検討していただきたい。
- 委員 17 ページ、「逆紹介率」を数値目標としているが、「かかりつけ医訪問回数」にする方が良いのではないか。診療報酬上、逆紹介率という指標は必要かもしれないが、140%という数字は理解し難いと思う。行動が目につく数値目標に変更してはどうか。
- 事務局 ご指摘のとおり逆紹介率は実態が見えにくい。地域連携に関する院内報告は件数で行っているため、改めて検討したい。
- 委員 地域連携を地道に行うことが、市立病院にとって一番のポイントになると思う。
- 会長 件数と率の両方をモニタリングする方が良い。可能であればお願いしたい。
- 委員 21 ページ、ジェネリック医薬品への置き換えにより、使用率 90%以上を維持するとあるが実績はどうか。
- 事務局 後発医薬品置き換え率は 96%～97%前後であり、ほぼ置き換わっている。
- 委員 18 ページ、取組項目の中に「3つの若葉を育てる会に積極的に参加する。」とある。私は同会の世話人であるためうれしい一方、感覚的にはコロナ禍前に比べて市立病院職員の参加人数が減っている印象がある。医療、福祉、介護関係者との顔の見える関係がより深まると思うので、地域連携の関係者は積極的に参加してほしい。
- 委員 初診患者数をどのように定義しているか。例えば、整形外科に繰り返し通う患者が紹介状を持参し眼科受診する場合はどうか。
- 事務局 例示いただいた他科受診は初診患者としてカウントしている。最終受診日から6か月以上空いた場合は初診患者とすることを基本としている。
- 会長 一般的に初診の定義は、院内のある診療科から別の診療科への紹介も入る。

- 委員 院内紹介も非常に大切だが、その場合は初診料の診療報酬を算定できない。
- 会長 おっしゃるとおり精神科、歯科、リハビリテーション科以外の診療科はできない。
- 委員 23 ページ、24 ページ、患者満足度調査を見ると、おしなべて調査病院の平均より悪い。施設満足度の低さは老朽化によるものであり、新病院が開設すれば非常によくなると思う。一方、人的対応の満足度の低さの原因と改善の余地はどうか。病院は評判が非常に大事だと思う。
- 事務局 24 ページ、外来患者満足度調査の個別満足度の中で、色の濃い部分は「非常に満足」を表している。サービス体制面は、他の項目に比べて満足度の割合が低い。診察までの待ち時間、会計の待ち時間、待ち時間への気配りなどについては、診察室の前でお待ちいただく必要がないようにシステムを導入する必要があると思っている。23 ページ、入院満足度調査は、「非常に満足」、「満足」が大部分を占めているものの、サービス面はその割合が低い。食事内容については、好き嫌いもあると思われるため改善は難しいと感じているものの、もう少し調査しても良いかもしれない。
- 会長 兵庫医科大学病院でも色々取り組んでいるが、患者満足度を上げるのは難しい。
- 事務局 前回審議会で「兵庫医科大学の患者サービスが非常に良いので見学にいかれてはどうか。」というご意見を頂戴しているので、兵庫医科大学病院または近隣病院に見学に行かせていただき、我々自身が患者目線になり、色んな施設の方々がどのような工夫をされているか考えたい。
- 委員 先日、市立病院のタクシー降場前に立っていた警備員が、一人一人全員に挨拶をしておられ、すごくうれしかった一方、職員の私語が気になった。職場では私語を慎んでほしい。市立病院に初めて来たときは正直評判が悪かったが、今はかなり良くなっており、期待している人が多い。8月1日の市長懇談会で、市長が「急性期病院は短期入院の入院単価が高い。」とおっしゃっていた。市立病院の経営は厳しいとテレビで放送されているのを何度か見たことがある。みなさんが一生懸命考えて良い病院にしようと思っていることはありがたい。
- 委員 本日の審議会に先立ち、介護現場でケアマネジャーが市立病院のことをどのように思っているか聞いてきた。「3つの若葉を育てる会の会場を提供してくださっていることに感謝している。」という意見があった。「地域医療室は他の病院に比べると本当にやりやすい。」という声がとても多かった。一方、「患者ご本人または家族が病状を把握していないことが多い。」とも聞いている。「職員は説明していると思うが患者や家族が理解していないようなので、可能であれば、理解しやすいように工夫してもらえればと、退院後もスムーズではないか。」という意見もあった。
- 事務局 面会制限があり、患者が家族と一緒にいられる時間が短いことも影響しているのではないかと考えている。今後、面会時間を延長するとともに、病棟看護師が院内での患者の生

活をご家族にお伝えする時間を作りたいと考えている。患者満足度の向上とともに家族満足度の向上にも取り組みたい。

(4) 令和7年度の経営状況について(事務局より資料7の説明)

委員 日本語を話すことができない外国人への対応はどのようにしているか。

事務局 ポケットーク(音声翻訳機)で対応している。外来と救急外来に置いている。

会長 外国人で自費診療の場合は、請求金額はどのように算出しているか。

事務局 保険診療に該当する診療行為は、保険点数1点に対して15円で請求している。

会長 1点15円はかなり低いと思うのでもう少し上げて良いと思う。兵庫医科大学病院は20円にしている。

委員 給与費について、今年度増加する分を計算に入れていないと思うため、決算に向けてもう少しマイナスが大きくなると思う。

事務局 令和7年度は、急性期充実体制加算2の施設基準を取得したことにより年間2億円の収益が増加するものの、給与費の増加で相殺されてしまうと思われる。

委員 インフレで材料費が高騰しているが、診療報酬改定で補うことができるとは考えられないため、独自の努力以外の選択肢がなく、どの病院もものすごく大変である。ある程度の赤字になることはやむを得ないと思う。

会長 毎年募集した看護師数は確保できているか。

事務局 採用を積極的に進めており、退職者数程度は確実に確保できている。一方、今年度は予定を含めて産休が17人、育休者を含めると44人になり、1部署以上の看護師が産休育休に入っている。子が3歳になるまで育休取得ができ、保育所の確保問題もあり復帰時期が読めないため、コロナ禍で休棟した1病棟を再開できていない。一度ダウンサイズすると元に戻ることは大変である。

会長 兵庫医科大学病院も看護師の確保には苦勞している。去年1病棟閉鎖した。3年以内の離職率が割と高くなっている。

事務局 採用のミスマッチで毎年1-2人の新人看護師が早期離職する。その中には当院で実習を経験した看護師もいる。実習時は比較的病態のわかりやすい患者を受け持ってもらうが、入職後は複雑な患者も受け持つため、想定と違ったとのこと。子育て世代については、これまで子が小学校に入るまで可能だった部分休業が、小学校に入ってから取得可能になったことや、保育所ではお迎え時間が延長できたが、小学校になり学童に入ることができず、そのタイミングで退職する看護師が毎年複数いる。

委員 病棟を閉鎖している状況と入院患者数がバランスしていれば効率的になるため、病棟閉鎖は必ずしも悪くない。病棟を再開するのであれば、どのような状況でも看護師を採用しなければならない。新病院にも関係してくる。

事務局 現状6人部屋がいくつもあり1人当たりのスペースも狭い。近隣には全個室の病院がある

が当院は個室も少ない。感染症などの患者が増加しているため、個室を希望する患者が個室に入院できない。このような状況から、患者サービスや療養環境を整える意味でも病棟の病床数を減らし、全病棟で対応することが必要であると感じている。

委員 家族が入院していたので6人床が考えられないことはよくわかる。

委員 新しい病院で保育所を作ることはいできないか。

事務局 現在も院内保育所はある。夜間保育の環境もあるが利用者はいない。0-3 歳くらいまで院内保育所に預けるものの、それ以降は居住地域の保育所に通わせる人が多い。友達と一緒に小学校に上がることを想定しているからだろうと思われる。

委員 最近、救急車を呼ぶ前に電話相談する＃7119 の運用が始まったと思う。救急車が対応しきれないということか。

事務局 7119 の運用が始まって間もないため、評価できていないと聞いている。

4. その他

委員 新病院に関する議題をいつ検討する予定か。現状、それが一番重要ではないか。

事務局 市長説明のとおり、現状新病院の基本計画を止めている。市長が考える医療、福祉、介護、保健ネットワークの考え方を検討中である。意見をとりまとめて基本計画に反映させたいと思っているが、いつ頃までにそのとりまとめができるかを本日お示しすることはできない。

委員 期限を決めなければ、新病院建設がどんどん遅れていくことになるか。

委員 先日の「市民と市長の対話ひろば」の中で、森市長は令和 13 年から令和 14 年には新病院を完成させたいとおっしゃっていた。

事務局 元々、令和 13 年度中の開院を目指していたが少し遅れてしまうのは間違いない。

委員 篤志家に対して 5 年以内に立ち上げる約束をしていると思う。このご寄附はふるさと納税であり、宝塚市はふるさと納税の納税額が日本一になり、全国的に注目されている。また、建設費は現在も高騰している。セメントを含めて費用が 20-30%上昇している。ゼネコンは仕事が取れるので強気になっており、時間が経つほど費用は上がる。市長は、医療、福祉、介護、保健の総合的な連携ということをおっしゃっているが、新病院の建設と総合的な連携は別であると思う。健康センター、介護老人保健施設、国民健康保険診療所の問題は、新病院の計画と並行して進めていくべきではないか。遅れるほど市民生活や病院経営にも大きな影響を与える。市は 10 月 1 日から 2 年間で懇話会を開く予定とのことだが、その結果を踏まえているようでは計画がかなり遅れる。

事務局 懇話会では 2 つのフェーズを予定している。1 つ目は新病院の建設に直接的に関係する部分になるため、できる限り年度内を目指して検討予定である。2 つ目は新病院建設に直接関係しない部分であるため、1 つ目の後で検討予定である。建物老朽化や物価高騰も十分認識し、急いで検討しなければならないと思っている。

- 会長 当審議会では基本計画の内容を検討してきたが、医療の範囲だけであり、介護や保健を含めるとかなり内容が変わるので一度止めざるを得ない。医療、福祉、介護、保健を考慮して基本計画を策定しなければ病院は立たないと思う。平成 28 年(2016 年)の建築価格を 100 とすると、現在は 150 になっている。人手不足の問題もある。一番はサブコン(ゼネコンから発注を受けた電気・空調・給排水の専門企業)不足である。私も病院を作っている所以状況は理解している。厳しい状況であると思うが、年度内の基本計画策定を目指していただきたい。
- 委員 「市立病院がどのような役割を果たすか。」という部分から議論し始めるのは大変だと思う。
- 会長 急性期病院としての機能を主に、市長のおっしゃる福祉、介護、保健をどのように付けるかということだと思う。
- 委員 市立病院は急性期医療を担いながら、急性期以外の機能を持たせるということか。
- 事務局 基本計画を全面的に見直そうとしているわけではなく、今までの議論を元に市長の考える項目の検討と、医療、福祉、介護、保健の既存棟活用について検討したい。新棟に影響する部分は基本計画に織り込む必要がある。できる限り年度内を目指したい。
- 会長 既存棟をどの程度活用するかについても議論しなければならない。
- 委員 どの市立病院も既存棟を壊さずに置いておくが、その後の費用が高いので実際はものすごく困っている。新病院の開院時期を延ばすのであれば、その間事故なく運営しなければならない。以前、配管の状態を聞いたので、それも踏まえて必要に応じて修理する前提で最低何年持つと考えているか。
- 事務局 年数を申し上げることは難しい。現在でも何か起こるかもしれないリスクは当然ある。
- 委員 川西市は新病院が立ち、伊丹市と西宮市は間もなく立つ予定で、宝塚市は遅れている。篤志家のご寄附によって建設スピードが速くなる機会に恵まれた。病院は 24 時間営業であり、建物の耐用年数は 50 年持たないので、一刻も早く完成させることが重要である。議論するのは良いことだと思うが、完成時期を変えないことが原理原則ではないか。
- 会長 当審議会委員の任期は近日満了する。一言ずつご挨拶をお願いしたい。
- 委員 振り返ると医療経営的に随分良くなったと感じている。事業管理者、院長をはじめとする方々に敬意を表したい。
- 委員 約 40 年製薬企業に勤めた経験、知識を通じて市立病院の役に立つことができないかという思いだった。良い病院ができるよう、今後ともよろしく願いたい。
- 委員 元気に過ごしているので病院とは縁がなかった。年寄りの話を聞いてくださる先生が良い先生、良い看護師だと思う。宝塚駅から病院までのシャトルバスを走らせてもらえたら高齢者も安心して市立病院まで来られるのではないかなと思う。是非、考えていただきたい。
- 委員 知識が豊富な委員や事務局の話を聞くことができて大変勉強になった。自宅から市立病

院に来るには、電車と乗りバスを乗り継がなければならず、ハードルが高いため利用したことがない。伊丹や川西の病院で手術したことはある。新病院は宝塚駅前にできれば良いと思っていたが、現地になるので、新たな交通手段を確保しなければ高齢者が通うことは難しくなると思う。また、南海トラフ地震がいつ来るかわからないこともあり、防災面に不安を感じることがあるので、他の委員同様、スピード感をもって新病院ができれば良いと思っている。

委員 金融機関に勤めていた時、わからないなりに病院の融資をしていた。新病院の計画を立て、実行に移すには非常に時間がかかること、新しい技術が入ってくるため費用が上がる傾向にあることを理解している。そのため、1日も早く新病院を作ることが費用的に一番良く、市民のメリットも大きいので、今後とも進捗を見続けたい。

委員 わからない中で言いたいことだけ言わせてもらった。応援しているのでこれからもがんばってほしい。

委員 いつも役に立てず申し訳ないと思いながら参加していたが大変勉強になった。救急搬送先が市立病院であることがわかり、利用者が安堵しているのを現場で目にすることがある。これからも高齢者も利用しやすい病院であり続けることを期待している。

5. 閉会